

小金井市
介護職員初任者研修 シラバス

【目次】

1. 介護職員初任者研修の規定時間
2. 受講生のカリキュラム 16 日間の進め方
3. 介護職員初任者研修カリキュラムと持ち物表
4. 通信課題内容と教科書範囲
5. 時間割と、日割りカリキュラム

1. 介護職員初任者研修の規定時間

種別	科目名	規定時間	区分		
			通学	通信	
講義	1 職務の理解	6	3	0	
	1① 多様なサービスの理解				
	1② 介護職の仕事内容や働く現場の理解		3	0	
	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9	1.5	3	
	2① 人権と尊厳を支える介護				
	2② 自立に向けた介護		0	4.5	
	3 介護の基本	6	0	1	
	3① 介護職の役割、専門性と多職種との連携				
	3② 介護職の職業倫理			3	0
	3③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント			0	1
	3④ 介護職の安全		0	1	
	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9	1.5	2	
	4① 介護保険制度				
	4② 障害福祉制度及びその他制度			0	2.5
	4③ 医療との連携とリハビリテーション		0	3	
	5 介護におけるコミュニケーション技術	6	3	0	
	5① 介護におけるコミュニケーション				
	5② 介護におけるチームのコミュニケーション		0	3	
	6 老化の理解	6	3	0	
	6① 老化に伴うこころとからだの変化と日常				
6② 高齢者と健康		0	3		
7 認知症の理解	6	1	0		
7① 認知症を取り巻く状況					
7② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理			0	2	
7③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活			2	0	
7④ 家族への支援		0	1		
8 障害の理解	3	0	0.5		
8① 障害の基礎的理解					
8② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識			0	0.5	
8③ 家族の心理、かかり支援の理解		2	0		
演習	9 こころとからだのしくみと生活支援技術	75	2	1	
	9① 介護の基本的な考え方				
	9② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解			2	1
	9③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解			2	2
	9④ 生活と家事			0	4
	9⑤ 快適な居住環境整備と介護			0	4
	9⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			6	0
	9⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			12	0
	9⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			6	0
	9⑨ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			6	0
	9⑩ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			6	0
	9⑪ 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			6	0
	9⑫ 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護			3	0
	9⑬ 介護過程の基礎的理解			6	0
9⑭ 総合生活支援技術演習		6	0		
講義	10 振り返り	4	2	0	
	10① 振り返り				
	10② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修			2	0

2. 受講生のカリキュラム 16 日間の進め方

第 1 日目	○ テキスト及び通信添削課題(3 種類)を配布 ○ 通信添削課題は、講義の事前学習用の位置づけ
第 2 日目	
第 3 日目	
第 4 日目	○ 第 1 回目通信添削課題の提出
第 5 日目	○ 第 1 回通信添削課題の採点 ○ 第 1 回通信添削課題解答の配布 ※第5回目を受講していない生徒は、第 6 回目以降の受講不可
第 6 日目	○ 演習授業開始
第 7 日目	○ 第 2 回目通信添削課題の提出
第 8 日目	○ 第 2 回通信添削課題の採点 ○ 第 2 回通信添削課題解答の配布
第 9 日目	
第 10 日目	
第 11 日目	
第 12 日目	○ 第 3 回目通信添削課題の提出
第 13 日目	○ 第 3 回通信添削課題の採点 ○ 第 3 回通信添削課題解答の配布 ○ 従業終了後、模擬試験(内容は修了評価試験と同じ)実施 ※第1回目～第13回目の全てを受講していないと、第14回目以降の受講不可
第 14 日目	○ 総合生活支援技術演習の中で実技試験を実施、内容不十分の場合、補講あるいは再受講 ※第1回目～第14回目の全てを受講していないと、第15回目以降の受講不可
第 15 日目	○ 総合生活支援技術演習の中で実技試験を実施、内容不十分の場合、補講あるいは再受講 ※第1回目～第15回目の全てを受講していないと、第16回目以降の受講不可
第 16 日目	○ 振り返り授業後、修了評価試験(当日の担当講師と事務局で採点)

※ 修了証明書は、修了評価試験実施日の 4～5 日後に小金井市内で開催される修了式で交付します。
(小金井市内の介護事業所の紹介も、そちらで行います。)

3. 介護職員初任者研修カリキュラムと持ち物表

講義	科 目	テキスト	持ち物
第1回目	<p>※1番最初に受講する必要があります。 オリエンテーション 1(1)多様なサービスの理解 1(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解</p>	<p>第1巻 P.2～7 P.8～39</p>	持ち物表(本紙)・服装表・筆記用具・テキスト(2巻)を持ち帰る袋
第2回目	<p>2(1)人権と尊厳を支える介護 3(2)介護職の職業倫理 4(1)介護保険制度</p>	<p>第1巻 P.44～67 P.102～105 P.136～165</p>	テキスト第1巻
第3回目	<p>5(1)介護におけるコミュニケーション 6(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常</p>	<p>第1巻 P.218～247 P.268～295</p>	テキスト第1巻
第4回目	<p>※第1回通信添削課題提出 7(1)認知症を取り巻く状況 7(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 8(3)家族の心理、かかわり支援の理解</p>	<p>第1巻 P.334～337 P.366～379 P.442～447</p>	テキスト第1巻
第5回目	<p>※第6回目以降の受講前に、必ず受講する必要があります。 9(1)介護の基本的な考え方 9(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解 9(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p>	<p>第2巻 P.2～9 P.10～21 P.22～61</p>	テキスト第2巻
第6回目	<p>※演習授業開始 9(11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>第2巻 P.270～287</p>	<p>テキスト第2巻・エプロン ※演習授業中の身だしなみについては「服装表」参照</p>
第7回目	<p>※第2回通信添削課題提出 9(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護(1)</p>	<p>第2巻</p>	<p>テキスト第2巻・エプロン</p>
第8回目	<p>9(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護(2)</p>	<p>P.134～181</p>	
第9回目	<p>9(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>第2巻 P.116～133</p>	<p>テキスト第2巻・エプロン・長方形のフェイスタオル かぶりシャツ(トレーナーまたは長袖Tシャツ)1着 前開きシャツ1着(ゆったりサイズが望ましい) 大きめのズボン1着(ウエストがゴムのスウェットなど) ※着衣の上から着脱をするため、大きめの物をご用意ください。 前開きシャツ・ズボンの代わりに大きめパジャマ上下でも良い</p>

講義	科 目	テキスト	持ち物
第 10 回目	9(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※当校にてお弁当を用意するので希望者は当日までに400円のみお支払いください	第 2 巻 P.182～213	テキスト第 2 巻 ・エプロン ご飯とおかず数品 (コンビニの幕の内弁当なども可) ※お弁当を当校で注文の方は持参の必要なし (注文者は 400 円) 置き鏡・飲み物 (お茶または水) ・コップ 1 個 ・スプーン 1 本 長方形のフェイスタオル 1 枚 ・曲がるストロー 1 本 歯ブラシ 1 本 アイマスク (目隠し用 ・大きめのハンカチ ・バンダナでも可)
第 11 回目	9(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	第 2 巻 P.244～269	テキスト第 2 巻 ・エプロン 長方形のフェイスタオル 2 枚 ・使い捨て手袋 (必要な方)
第 12 回目	※第3回通信添削課題提出 ※洗髪・足浴を行いますので、首回りのあいた服装で来てください。 9(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	第 2 巻 P.214～243	テキスト第 2 巻 ・エプロン 厚手の大きいバスタオル 2 枚 ・長方形のフェイスタオル 5 枚 45L ゴミ袋 5 枚 ・洗濯ばさみ (物干し竿に挟めるぐらいのもの) 2 個 ハンカチ 1 枚 ・滑り止めのない軍手 (無理に持ってこなくても OK) 1 組 輪ゴム 2 本 ヘアブラシ ・ドライヤー (必要な方) ・使い捨て手袋 (必要な方) シャンプー (肌荒れ等を起こしやすい方)
第 13 回目	※第1回目～第13回目の全てを受講していないと、第14回目以降の受講不可 9(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護 ※授業は 9:30～12:50 ※授業終了後、模擬試験 (昼休憩なし) 14:00 終了	第 2 巻 P.288～300	テキスト第 2 巻 ・エプロン
第 14 回目	※第1回目～第14回目の全てを受講していないと、第15回目以降の受講不可 9(13) 介護過程の基礎的理解 (1) 9(14) 総合生活支援技術演習 (1)	第 2 巻 P.316～323 P.324～347	テキスト第 2 巻 ・エプロン
第 15 回目	※第1回目～第15回目の全てを受講していないと、第16回目以降の受講不可 9(13) 介護過程の基礎的理解 (2) 9(14) 総合生活支援技術演習 (2)		
第 16 回目	※第 1 回目～第 15 回目の全てを受講していないと、受講不可 10(1) 振り返り 10(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 ※授業終了後、修了評価筆記試験 (15:50 終了)	第 2 巻 P.350～355	テキスト第 2 巻

4. 通信課題内容と教科書範囲

※40時間内訳

2(1) 人権と尊厳を支える介護 (3時間)	○教科書1巻 P44～51
2(2) 自立に向けた介護 (4.5時間)	○教科書1巻 P68～82
3(1) 介護職の役割、専門性とは職種との関係 (1時間)	○教科書1巻 P84～101
3(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント (1時間)	○教科書1巻 P106～117
3(4) 介護職の安全 (1時間)	○教科書1巻 P118～133
4(1) 介護保険制度 (2時間)	○教科書1巻 P136～142
4(2) 障害福祉制度及びその他制度 (2.5時間)	○教科書1巻 P166～181
4(3) 医療との連携とリハビリテーション (3時間)	○教科書1巻 P182～215
5(2) 介護におけるチームコミュニケーション (3時間)	○教科書1巻 P248～266
6(2) 高齢者と健康 (3時間)	○教科書1巻 P296～332
7(2) 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理 (2時間)	○教科書1巻 P338～365
7(4) 家族への支援 (1時間)	○教科書1巻 P380～387
8(1) 障害の基礎的理解 (0.5時間)	○教科書1巻 P390～399
8(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、 かかり支援の基礎的知識 (0.5時間)	○教科書1巻 P400～441
9(1) 介護の基本的な考え方(1時間)	○教科書2巻 P2～9
9(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 (1時間)	○教科書2巻 P10～21
9(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 (1時間)	○教科書2巻 P22～27
9(4) 生活と家事 (4時間)	○教科書2巻 P66～91
9(5) 快適な居住環境整備と介護 (4時間)	○教科書2巻 P92～115

5. 時間割と、日割りカリキュラム

	通信 1 日目		通信 2 日目		通信 3 日目		通信 4 日目
OR	9:30~10:00						
1 時限	10:00~11:00	1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30
2 時限	11:10~12:10	2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40
昼休み	12:10~13:00	3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50
3 時限	13:00~14:00	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40
4 時限	14:10~15:10	4 時限	13:40~14:40	4 時限	13:40~14:40	4 時限	13:40~14:40
5 時限	15:20~16:20	5 時限	14:50~15:50	5 時限	14:50~15:50	5 時限	14:50~15:50
6 時限	16:30~17:30	6 時限	16:00~17:00	6 時限	16:00~17:00		
	通信 5 日目		通信 6 日目		通信 7 日目		通信 8 日目
1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30
2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40
3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50
昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40
4 時限	13:40~14:40	4 時限	13:40~14:40	4 時限	13:40~14:40	4 時限	13:40~14:40
5 時限	14:50~15:50	5 時限	14:50~15:50	5 時限	14:50~15:50	5 時限	14:50~15:50
6 時限	16:00~17:00	6 時限	16:00~17:00	6 時限	16:00~17:00	6 時限	16:00~17:00
	通信 9 日目		通信 10 日目		通信 11 日目		通信 12 日目
1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30
2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40
3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50
昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40
4 時限	13:40~14:40	4 時限	13:40~14:40	4 時限	13:40~14:40	4 時限	13:40~14:40
5 時限	14:50~15:50	5 時限	14:50~15:50	5 時限	14:50~15:50	5 時限	14:50~15:50
6 時限	16:00~17:00	6 時限	16:00~17:00	6 時限	16:00~17:00	6 時限	16:00~17:00
	通信 13 日目		通信 14 日目		通信 15 日目		通信 16 日目
1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30	1 時限	9:30~10:30
2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40	2 時限	10:40~11:40
3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50	3 時限	11:50~12:50
昼休み	なし	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40	昼休み	12:50~13:40
模擬試験	13:00~14:00	4 時限	13:40~14:40	4 時限	13:40~14:40	4 時限	13:40~14:40
		5 時限	14:50~15:50	5 時限	14:50~15:50	修了試験	14:50~15:50
		6 時限	16:00~17:00	6 時限	16:00~17:00		

1 日目

1 職務の理解（テキスト第1巻）

1（1）多様なサービスの理解（P2～7）

1（2）介護職の仕事内容や働く現場の理解（P8～39）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	1 職務の理解 【ねらい】 ・研修に先立ち、これからの介護職が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる 《講義内容》 ・研修課程全体（130 時間）の構成と各研修科目（10 科目）相互の関連性や全体像を、あらかじめイメージできるようにする
2 時限	・介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を学習する
3 時限	・介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を学習する ・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を学習する
(昼休憩)	
4 時限	《講義内容》 ・居宅、施設などの多様な現場におけるサービスの内容や利用者像を通じて、介護職の仕事内容や働く現場の具体的なイメージをもつことができるようにする
5 時限	・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを学習する ・他職種とのチームアプローチの必要性や、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との具体的な連携方法を学習する
6 時限	映像資料使用(70分)※教科書1巻付属「職務の理解」DVD 《演習》 ・居宅サービス・施設サービス・介護保険外サービスの長所・短所についてグループディスカッションを行い、サービスについての理解を深める
終了時刻 17:30	

2 日目

2 介護における尊厳の保持・自立支援（テキスト第1巻）

2（1）人権と尊厳を支える介護（一部通信課題含む）（P44～67）

3 介護の基本（テキスト第1巻）

3（2）介護職の職業倫理（P102～105）

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（テキスト第1巻）

4（1）介護保険制度（一部通信課題含む）（P136～165）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 限目	2 介護における尊厳の保持・自立支援 【ねらい】 <ul style="list-style-type: none">・介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している 《講義内容》 <ul style="list-style-type: none">・人が有する基本的権利について概説し、介護を必要とする状態となっても、個人として尊重され、尊厳のある暮らしを営む権利を持つことを学習する・人権と尊厳を守る上での基本的な価値である、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」を実感できる支援、プライバシーの保護などについて学習する・ICFについて概説し、介護分野における意義や、活用方法などについて学習する・利用者の生活の質を向上させるための、QOLの考え方について学習する
2 限目	<ul style="list-style-type: none">・ノーマライゼーションについても学習する・人権を侵害する行為としての高齢者虐待と身体拘束について説明し、法的根拠としての高齢者虐待防止法に触れ、高齢者の養護者も支援することの重要性について学習する・個人の権利を守る制度である、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業の概要について学習する
3 限目	《演習》 <ul style="list-style-type: none">・具体的な事例を用いて、利用者の残存機能を活用することを、グループディスカッションを通じて気づかせ、そのことが利用者の自立支援や重度化の防止・遅延化にも資することを理解させる
(昼休憩)	3 介護の基本 【ねらい】 <ul style="list-style-type: none">・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している
4 時限	《講義内容》 <ul style="list-style-type: none">・専門職の倫理の意義について概説し、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）について学習する・介護職としての社会的責任を踏まえ、プライバシーの保護と尊重について学習する 《演習》 <ul style="list-style-type: none">・どんな介護職になりたいかをグループで話し合い、他グループと共有する
5 時限	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 【ねらい】 <ul style="list-style-type: none">・介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務についてその概要のポイントを列挙できる
6 時限	《講義内容》 <ul style="list-style-type: none">・介護保険制度の創設の背景（ケアマネジメント手法の導入）と目的を踏まえ、現在までの動向（予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進など）について学習する・仕組み基礎的理解として、保険制度としての基本的仕組みを概説し、給付の仕組み（介護給付とその種類、予防給付）、要介護認定の手順について学習する
終了時刻 17:00	<ul style="list-style-type: none">・指定介護サービス事業者の指定について学習する

3日目

5 介護におけるコミュニケーション技術（テキスト第1巻）

5（1） 介護におけるコミュニケーション（P218～247）

6 老化の理解（テキスト第1巻）

6（1） 老化に伴うこころとからだの変化と日常（P268～295）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法	
1 時限	5 介護におけるコミュニケーション技術 【ねらい】 <ul style="list-style-type: none">・高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している 《講義内容》 <ul style="list-style-type: none">・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について学習する・言語的コミュニケーションの特徴および、非言語的コミュニケーションの特徴について学習する・傾聴、共感、受容などのコミュニケーションの技法や道具を用いた言語的コミュニケーションの技法について学習する	
2 時限		<ul style="list-style-type: none">・利用者の思いを把握すること、意欲低下の要因を考えること、利用者の感情に共感することなどの、利用者とのコミュニケーションの実際について学習する・家族の心理的理解を踏まえ、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し避難することがないように対応することの大切さなど、家族とのコミュニケーションの実際について学習する
3 時限		<ul style="list-style-type: none">・利用者、家族の思いを踏まえ、アセスメントの手法と、ニーズとデマンドとの違いについて学習する 《演習》 <ul style="list-style-type: none">・具体的な事例（認知症など）を用いて、利用者や家族が抱きやすい葛藤や介護における相談援助技術の重要性をグループで話し合い、介護職としてもつべき視点を分かち合う
(昼休憩)		
4 時限	6 老化の理解 【ねらい】 <ul style="list-style-type: none">・加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する 《講義内容》 <ul style="list-style-type: none">・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について、防衛反応（反射）の変化、喪失体験などを踏まえて学習する・老化に伴う、身体的機能の変化と日常生活への影響について学習する・咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化など、生理的側面の知識について学習する・精神機能の変化と日常生活への影響について学習する	
5 時限		《演習》 <ul style="list-style-type: none">・グループで老化について社会的、身体的、精神的、知的側面から話し合い、老化に伴う変化を理解することの重要性と継続的に学ぶ必要性への気づきを得る (例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等)
6 時限		
終了時刻 17:00		

4 日目

7 認知症の理解（テキスト第1巻）

7（1） 認知症を取り巻く状況（P334～337）

7（3） 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活（P366～379）

8 障害の理解（テキスト第1巻）

8（3） 家族の心理、かかわり支援の理解（P442～447）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	7 認知症の理解 【ねらい】 ・介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解している 《講義内容》 ・認知症ケアの理念について学習する（パーソンセンタードケア） ・認知症ケアの視点について学習する（できることに着目する視点）
2 時限	《講義内容》 ・認知症の中核症状および行動・心理症状（BPSD）について学習する ・不適切なケアと、生活環境の中で改善を図る視点について学習する ・認知症の利用者への対応を学習する
3 時限	（失敗しないような状況をつくる、コミュニケーションの大切さ、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持を推察する、認知症の進行に合わせたケア） 《演習》 ・認知症の方への接し方について課題を出し、グループで話し合い、他のグループと意見を共有し、介護職として認知症を理解することの重要性への気づきを促す ・認知症の利用者の心理・行動の実際を実感できるよう事例で示し、グループで話し合い、他グループと意見を共有する
(昼休憩)	
	8 障害の理解 【ねらい】 ・障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している 《講義内容》 ・家族が障害を理解し、受容するための支援について学習する ・介護負担の軽減の方法について学習する
4 時限	
5 時限	・家族のとらえ方および支援（レスパイトサービス）について学習する
終了時刻 15:50	

5日目

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

- 9（1） 介護の基本的な考え方（P2～9）
- 9（2） 介護に関するこころのしくみの基礎的理解（P10～21）
- 9（3） 介護に関するからだのしくみの基礎的理解（一部通信課題含む）（P22～61）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
<p>1 時限</p> <p>2 時限</p> <p>3 時限</p> <p>(昼休憩)</p> <p>4 時限</p> <p>5 時限</p> <p>6 時限</p> <p>終了時刻 17:00</p>	<p>9 こころとからだのしくみと生活支援技術 【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 <p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）の必要性について学習する。 ※介護とは何か？介護の見方、考え方の変化 ・法的根拠に基づく介護について学習する。 ※介護福祉士の定義のあゆみ ・感情と意欲の基礎知識について学習する。 ※感情のしくみ、意欲のしくみ ・自己概念と生きがいについて学習する ※自己概念の視点、マズローの欲求 ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因について学習する ※不適応状態を緩和する心理、適応規制、施設への入所・入居による環境の変化と心理 ※こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響 ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識について学習する。 ・骨・関節・筋肉に関する基礎知識、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識について学習する ・自律神経と内部器官に関する基礎知識について学習する ※こころとからだを一体的に捉える ※利用者の様子の普段との違いに気づく視点

6日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（11） 睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（P270～287）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の必要性と、睡眠に関するころとからだのしくみを学習する ・安眠のための環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）と介護の工夫（安楽な姿勢・褥瘡予防）について学習する
2 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法を学習する
3 時限	<p>《演習内容》</p> <p>※パワーポジションの確認を行い、活用するように促す</p> <p>演習 1 空きベッドでのベッドメイキング（2巻・P.261～P.263 参照）</p>
(昼休憩) 4 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドの動かし方、ブレーキの掛け方 ※車輪は「ハの字」になるようにしブレーキをかける ※配線の巻き込みに注意する。 ・シーツの畳み方 ・枕カバーの入れ方 ・ベッドメイキング（三角コーナー）
5 時限	<ul style="list-style-type: none"> ※三角は折り返したシーツが一直線に重なり、綺麗な三角ができるように ※四角コーナーはデモのみ ※ベッドの各部の名称、操作説明、サイドレール取扱方、役割について説明
6 時限	<p>演習 2 臥床している状態でのシーツ交換（2巻・P.261～P.263 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※事例 4 の利用者を想定（体調が悪い国分寺さん） ※一人で行う。防水シーツも使用 ※ベッド上の落屑や髪の毛などのゴミを飛散させない ※臥床している方がいる時は、ベッドの頭側を通らない
終了時刻 17:00	<p>《禁止事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床に膝をつく ・シーツのシワを手のひらで伸ばす ・命令口調の声かけ ・手アイロン ・靴を脱いだまま歩く ・ベッドのコードを踏む ・手足を上から掴む（点で触れる） ・「ベッド柵」NG → 「サイドレール」で統一 ※柵という表現は身体拘束を連想する為不適切

7 日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻 P134～P141・P148～P152）

9（7） 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 その①

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残存能力の活用・自立支援、ボディメカニクスの基本原則、利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、重心・重力の動きの理解などの移動・移乗に関する基礎知識について学習する <p>※テキスト2巻 P134～P141・P148～P152</p>
2 時限	<p>《演習内容》</p> <p>演習1 ボディメカニクスの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者、介護職双方に無理がない介護の実践を行うために、ボディメカニクス8つの原則を説明。
3 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポジションについて確認を行う <ul style="list-style-type: none"> ・支持基底面を肩幅より広く取り、膝を曲げて重心を低くし、腰は30度以上曲げない ・パワーポジションの姿勢で、支持基底面内での重心移動の練習をする <p>※特に、水平移動(持ち上げない)、重心移動(腰に負担をかけない)の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立ち上がり動作のメカニズム確認（椅子からの立ち上がり。一部介助の立ち上がり）
(昼休憩)	
4 時限	<p>演習2 移動・移乗の支援</p> <p>2-1 体位変換の介護（一部介助・全介助）（2巻・P.148～P.149 参照）</p> <p>※一部介助は事例3の利用者を想定（武蔵さん）</p> <p>※全介助は普通に比べて力が入らない事例2の利用者を想定（体調不良の武蔵さん）</p> <p>☆（対面法・背面法両方行う）※体の触れ方（面で触れる）</p>
5 時限	<p>2-2 仰臥位→側臥位→端座位→立位への介護（一部介助）（2巻・P.148～P.152 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起き上がり動作のメカニズム確認 <p>※事例2の利用者を想定（武蔵さん） ※介助バーの使い方、留意点を指導する</p> <p>☆逆バージョンも実施。（立位→端座位→即臥位→仰臥位）</p>
6 時限	<p>2-3 端座位→立位への介護（全介助）（2巻・P.168 参照）</p> <p>※車椅子は使わず立ち上がるまでの動作のみ演習実施</p> <p>※普通に比べて力が入らない事例3の利用者を想定（武蔵さん）</p> <p>☆健側重心を意識して、重心移動・麻痺側のサポートを行う</p>
終了時刻 17:00	

8 日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻 P142～P147・P153～P181）

9（7） 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 その②

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法を理解する ・利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するころとからだの要因と支援方法について学習する ・移動行為と社会参加の留意点について学習する ・褥瘡予防について学習する <p>※テキスト第2巻 P142～P147・P153～P181</p>
2 時限	<p>《演習内容》</p>
3 時限	<p>演習3 半身麻痺の利用者の杖歩行の介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ※想定利用者（左麻痺・軽度ふらつき有り） ※杖の事前点検、患側の保護、介護者の立ち位置を含めた、転倒防止への配慮を行う ※利用者役を行うことで杖を使った歩行動作を学習する <p>3-1 3動作歩行・2動作歩行・段差越え（障害物を越える）（2巻・P.156～158 参照）</p> <p>3-2 階段の昇降（2巻・P.159 参照）</p>
(昼休憩) 4 時限	<p>演習4 車いすでの移動介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ※車いす各部の名称、取り扱い説明（安全な車いすのたたみ方、広げ方を学習する）（2巻・P144～145） ※利用者は普段に比べて力が入らない事例2の利用者を想定（体調不良の武蔵さん）
5 時限	<p>5-1 段差越え（2巻・P.169～171 参照）</p> <p>5-2 坂道の上り下り（2巻・P.172 参照）</p> <p>※室内で演習</p>
6 時限	<p>演習5 ベッド車いす間の移乗の介護</p> <ul style="list-style-type: none"> 4-1 一部介助でのベッド⇄車いす間の移乗介護（2巻・P.164～167 参照） ※事例2の利用者を想定（武蔵さん） 4-2 全介助でのベッド⇄車いす間の移乗介護（2巻・P.168 参照） ※普段に比べて力が入らない事例3の利用者を想定（武蔵さん）
終了時刻 17:00	

9日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（6） 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（P116～133）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整容に関する基礎知識、整容の支援技術について学習する <p>{身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動（整髪、髭の手入れ、化粧）、洗面の意義・効果}</p>
2 時限	<ul style="list-style-type: none"> ※「脱健着患」 ※上から掴まない。面で触れ、下から支える
3 時限 (昼休憩)	<p>《演習内容》</p> <p>演習1 部分清拭(顔拭き)の介護（2巻・P.119参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※清拭タオルの使用方法（たたみ方。持ち方。面で触れる等） ※口頭で解説後、簡易な演習を行う
4 時限	<p>演習2 座位での衣服の着脱(一部介助・片麻痺)の介護（2巻・P.128～P.129参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※事例2の利用者を想定（武蔵さん） 2-1 前開きの上衣の着脱 2-2 かぶりの上衣の着脱
5 時限	<ul style="list-style-type: none"> 2-3 ズボンの着脱
6 時限	<p>演習3 ベッド上での衣類の着脱(全面介助・片麻痺)の介護（2巻・P.130～P.132参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※全介助は普段に比べて力が入らない事例2の利用者を想定（体調不良の武蔵さん） 3-1 前開き上衣の着脱 3-2 ズボンの着脱
終了時刻 17:00	

10日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（8） 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（P182～213）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事に関する基礎知識（食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識）について学習する ・ 食事に関した身体的な理解（低栄養・脱水の弊害、咀嚼・嚥下のメカニズム）について学習する ・ 食事に関する心理的な理解（空腹感、満腹感、好み）について学習する
2 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事に関する環境の理解（食事の時間・場所等、食事の姿勢）について学習する ・ 食事に関する福祉用具の活用と介助方法について学習する ・ 楽しい食事を阻害するころとからだの要因と支援方法について学習する ・ 食事と社会参加の留意点と支援について学習する ・ 誤嚥性肺炎の予防の視点と、口腔ケアの重要性、方法について学習する
3 時限	<p>《演習内容》</p> <p>演習 1 食事、飲水の介護</p> <p>※とろみの正しい付け方を学習する</p> <p>1-1 椅子上での全介助（2巻・P.190 参照）</p>
(昼休憩)	
4 時限	<p>1-2 椅子上での視覚障害者の介助（2巻・P.194 参照）</p> <p>※クロックポジションを演習する</p>
5 時限	<p>1-3 ベッド上での全介助（2巻・P.191～P.193 参照）</p>
終了時刻	<p>演習 2 口腔ケアの介護（2巻・P.204～P.207 参照）</p> <p>※椅子上で自分自身の口腔ケアを演習する</p>
17:00	

11日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（10） 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（P244～269）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する身体的（生理的）側面について学習する ・排泄に関する心理的側面（プライド・羞恥心、プライバシーの確保、心理的負担・尊厳や生きる意欲との関連）について学習する
2 時限	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する社会的側面（排泄障害が日常生活に及ぼす影響、おむつ使用の弊害）について学習する ・排泄環境整備と排泄用具の活用方法について学習する ・便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫、腹部マッサージ）について学習する
3 時限 (昼休憩)	<p>《演習内容》</p> <p>演習 1 物品紹介として、尿器、差し込み便器の紹介をする（2巻・P. 258, P. 263 参照）</p>
4 時限	<p>演習 2 おむつ交換(臥床状態での陰部清浄含む)（2巻・P. 256～P. 257 参照）</p> <p>※全介助は普段に比べて力が入らない事例2の利用者を想定（体調不良の武蔵さん）</p>
5 時限	<p>演習 3 一部介助を要する利用者のポータブルトイレ介護（2巻・P. 254～P. 255 参照）</p>
6 時限	<p>※事例2の利用者を想定（一部介助）武蔵さん</p> <p>※ポータブルトイレの扱い方</p>
終了時刻 17:00	<p>※プライバシーへの配慮（声掛け、環境）</p>

12日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（9）入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（P214～243）

時間目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴に関する基礎知識（入浴・清潔保持の意義、体調確認の視点、羞恥心や遠慮への配慮など）について学習する ・洗髪の方法と留意点について学習する
2 時限	<p>《演習内容》</p> <p>演習1 洗髪の介護（臥床状態での介護）（2巻・P.234～P.235 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※全介助は普段に比べて力が入らない事例2の利用者を想定（体調不良の武蔵さん） ※ケリーパッドの作り方を学習する ※パワーポジションを取り、腰に負担のかからない姿勢をとる
3 時限	
(昼休憩)	
4 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）について学習する ・目・鼻腔・耳・の清潔方法と留意点について学習する ・臥床状態での陰部洗浄の方法と留意点について学習する ・足浴・手浴の方法と留意点について学習する ・入浴用具、整容用具の種類や活用方法について学習する
5 時限	<p>《演習内容》</p> <p>演習2 入浴の介護（片麻痺の利用者、浴槽への出入り）（2巻・P.222～P.224 参照）</p>
6 時限	<ul style="list-style-type: none"> ※簡易浴槽を使用し演習する
終了時刻	<p>演習3 全身清拭の介護（2巻・P.236～P.237 参照）</p>
17:00	<p>演習4 足浴の介護（2巻・P.232～P.233 参照）</p>

13日目

9 心とからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（12） 死にゆく人に関する心とからだのしくみと終末期介護（P288～300）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限 2 時限 3 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終末期に関する基礎知識について概説し終末期ケアについて学習する ・ 終末期におけるからだのしくみ（生から死への過程）について学習する ・ 高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）について学習する ・ 終末期における心のしくみ（「死」に向き合うこころの理解）について学習する ・ 臨終が近づいたときの兆候と介護のあり方について概説し、苦痛の少ない死への支援の方法、他職種間の情報共有の必要性について学習する
13:00	《模擬テスト実施》
終了時刻 14:00	

14日目

9 ころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（13） 介護過程の基礎的理解①（P.316～323）

9（14） 総合生活支援技術演習①（P.324～347）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の目的・意義・展開を学習する ・ 介護過程を通じてチームアプローチの重要性と方法を学習する
2 時限	<p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例1（国分寺さん）の情報収集をし、具体的援助内容用紙に援助内容を記入していく。「挨拶・体調の確認・説明と同意を得る」⇨「ベッドから椅子に座ってもらう」⇨「必要物品の準備をし、ベッドメイキングをする」⇨「外出するための上着を準備する」⇨「T字杖の安全を確認する」⇨「杖を握ってもらい玄関まで案内する（途中段差を越える）」⇨「体調や気分を確認する」 の流れに対しグループに分かれ介護過程を展開し、介護計画書を作成する
3 時限	<p>《介護計画立案グループワーク・練習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッド等の物品を活用しながら、介護計画立案のグループワーク、実技練習を行う
(昼休憩) 4 時限 5 時限 6 時限	<p>《実技評価》</p> <p>想定事例1について、グループごとに作成した介護計画に基づいた介護を、受講生が利用者役／介護者役に分かれ実施し、評価表を用いて客観的に評価し、フィードバックする</p>
終了時刻 17:00	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合生活支援技術演習評価シートにおけるABCD評価で、総合評価Aまたは総合評価Bを合格とする

15日目

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（テキスト第2巻）

9（13） 介護過程の基礎的理解②（P.316～323）

9（14） 総合生活支援技術演習②（P.324～347）

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の目的・意義・展開を学習する ・ 介護過程を通じてチームアプローチの重要性と方法を学習する
2 時限	<p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例2（武蔵さん）の情報収集をし、具体的援助内容用紙に援助内容を記入していく。 「利用者の元を訪れ、用件と体調を確認する」⇨「カーテン（居室のドアなど）を閉める」⇨「仰臥位から起き上がり、端座位にする」⇨「端座位から立ち上がりを介助する」⇨「下衣の脱衣を介助する」⇨「ポータブルトイレに座ってもらう」⇨「排泄中の利用者から離れる」⇨「ポータブルトイレからの立ち上がりを介助する」⇨「下衣の着衣を介助する」⇨「端座位への着衣を介助する」⇨「ベッドへの臥位を介助する」⇨「体調気分の確認をする」⇨「カーテン（居室のドアなど）を開ける」⇨「排泄物の観察・記録をする」⇨「使用物品を片付ける」の流れに対しグループに分かれ介護過程を展開し、介護計画書を作成する
3 時限	<p>《介護計画立案グループワーク・練習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッド等の物品を活用しながら、介護計画立案のグループワーク、実技練習を行う
(昼休憩) 4 時限 5 時限 6 時限	<p>《実技評価》</p> <p>想定事例2について、グループごとに作成した介護計画に基づいた介護を、受講生が利用者役／介護者役に分かれ実施し、評価表を用いて客観的に評価し、フィードバックをする</p> <p>※待機するグループに対しパーテーション等を使用し、実技演習の様子が見えないように配慮する。</p>
終了時刻 17:00	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合生活支援技術演習評価シートにおける ABCD 評価で、総合評価 A または総合評価 B を合格とする

16日目

10 振り返り（テキスト第2巻）

10（1） 振り返り（P.350～355）

10（2） 就業への備えと研修修了後における継続的な研修

時間 目安	講義内容及び演習の実施方法
1 時限 2 時限 3 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを再確認する ・ 根拠に基づく介護についての要点を再確認する（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに研修前に描いていた介護のイメージと、研修を通じた介護のイメージの変化について話し合い、その変化の理由を考え、学習することの必要性の理解を促す
(昼休憩)	
4 時限	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介しながら、就業への備えについて学習する ・ 介護職員のキャリアパスについて確認し、継続的に学習すること重要性を学ぶ
終了時刻 14:40	<p>《授業終了後修了評価筆記試験》（14:50～15:50）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 70点以上で合格。（不合格者は当日または後日再テスト）